

蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆

近藤龍弘

〒940-0052
長岡市神田町1丁目4番地10
TEL.(0258) 32-2811

◆スタッフ◆

小林国二 小林善秋 高橋潔 加瀬由紀子
室賀清輝 近藤マリ子 高橋利春 近藤善信

後援・株式会社アサヒ
印刷・(株)北越時報社



大勢の修行僧に見送られて本山を後にする真弘

ご家族の皆さままでご覧ください

還暦を迎えて

翠巖 龍弘

上の写真は、弟子の真弘が六年間の大本山總持寺での修行が終わり、大勢の皆様に見送られている送行の様子です。

其の節には大勢の檀信徒の皆様から本山団参に参加戴き誠に有り難うございました。私も弟子の送行に会い、三十数年前の本山修行時代が懐かしく思い出されました。

本山での生活は、月行事、年

行事などの特別のものもありますが、基本的には暁天(朝の坐禅)・朝課に始まり夜坐(夜の坐禅)に終わります。雲水日記にも紹介されておりましたが、三ヶ月から半年くらいで寮(係)も変わり、僧侶として知らなければならぬことも自然に身につけていきます。毎日同じことの繰り返しですが、気が付くといつの間にか僧侶としての自信も備わってくるから不思議です。

「石の上にも三年」という諺もありますが、職人・芸ごと・スポーツ等々、何事も毎日の繰り返し、只管行うことが気が付いた時には、技量・気力・体力等が備わってきたといえるようになるのではないのでしょうか。日本人が本来もっていた忍耐・根気というものをもう一度見直し、大事にしたいものです。

私も今年、還暦をむかえました。還暦を辞典で調べたら「干支が一巡して数え年六十一歳をむかえる年」だそうです。私は昭和廿二年生まれですので、丁亥で

す。その後、己亥・辛亥・癸亥・乙亥となり今年、平成十九年に丁亥と元に戻ったわけです。新たに一歳になったわけです。

六十年前の一歳の時はお互いオギャーと泣くだけでした。その後身体も成長し、言葉や文字を覚え、学生時代、また遊びや運動、仕事などを通じて他人の気持ちに察することなどを身につけたり、仲間や友人ができたりと、人それぞれの人生を送って来ました。その間には、嬉しい、楽しい、幸福だと思えることもあったり、逆に悲しい、辛い、苦しい、逃げだしたい、不辛だと感じたことも多くあったと思います。

しかし、還暦をむかえての一歳は、過去六十年の経験を積んでの一歳です。人間にとって何が大事なのかなど、真の幸福とは何なのかなど、参考になることは各々一杯経験して来ました。新たに一歳になるに当たり、お互い「生きる」ということを深く掘り下げて人生を送りたいものです。

安善寺に戻って参りました

近藤真弘

緊張で汗ばんだ手で如意を持ち本山での最後の朝、朝課の導師を勤めました。正面には私がお世話になった御本山に報恩感謝のため駆けつけてくださった多くの檀信徒の皆様。さらに緊張は高まったがそれと同時に

に六年間毎朝勤めてきた大祖堂での朝課、今日で最後だと思ふと緊張を上回る感慨深さがこみ上げてきた。前号で紹介の通り四月二十六日で大本山總持寺での修行を終えて安善寺に戻ってまいりました。



送行まで残り数日になると總持寺で過ごす一日一日がとても貴重なものを感じられ、やることすべてに「本山でこれをするのは最後だな」と感慨に浸っていました。着実に毎日進んでいくのに気持ちは過去の思い出を追っていた。本当に御本山にはお世話になり数多くの経験、勉強をさせていただき、そして

多くの仲間ができました。「長く修行を続けていると逆に居心地が良いんじゃないの」とよく言われます。少なからず私にとって御本山はそんな居心地の良さを与える場所になっていました。そんな御本山も送行の日を境に過去の場所になりません。正直そのことに多少の不安もありました。しかし、送行の当日、香積台で最後の挨拶をして後ろを振り返ったときそんな不安は一気に消えてなくなりました。そこには共に修行した数多くの修行僧、そして安善



寺の檀信徒の皆様が入り混じり長い道ができていました。過去にお世話になった人がいたから今の自分がここに立ってられる、そして先に待っている人がいるから更なる一步を踏み出せる。振り返って見た光景はまさにそのことを教えてくれました。

送行してから二ヶ月が経ちました。もうすでに多くの檀信徒の皆様には大変お世話になっております。月のお経でお宅にお邪魔す

ると先々でねぎらいの言葉や待っていましたという温かいお言葉をかけていただきます。それが「不安なんていらない、ここがお前の居場所だ」と言っていただけであるようで、それだけでも六年間が実りあるものだったと実感させていただくものであります。

これからは檀信徒の皆様にも、そして私にとっても安善寺がもつと居心地のよい場所となるよう精一杯努めていきたいと思っております。

益々のご活躍を祈念します

笠井 義一

私の曹洞宗大本山總持寺参拝は、龍弘方丈様が全国のご寺院より選ばれ、晴れの焼香師をおやりになって以来である。今回の本山旅行も道中つつがなく予定より早くに本山に到着。恒例により歴代禅師様の眠る墓所を参拝し、石原裕次郎さんの墓見学の後、時間調整のため部屋に待機。



禅師様にはご多忙にも拘

わらず、御時間をさいて我々信徒と紫雲台相見の間にてお会い下され、修行僧にお褒めの御言葉、檀徒に慰勞の御言葉、ただ感激のみであった。

続いて隣の部屋にて禅師様との記念撮影。休憩後、普段本山では許されない般若湯、安善寺にはご縁のある小金山泰玄典座和尚様の作られた「上げ膳」。ご馳走の数々に満腹いたしました。

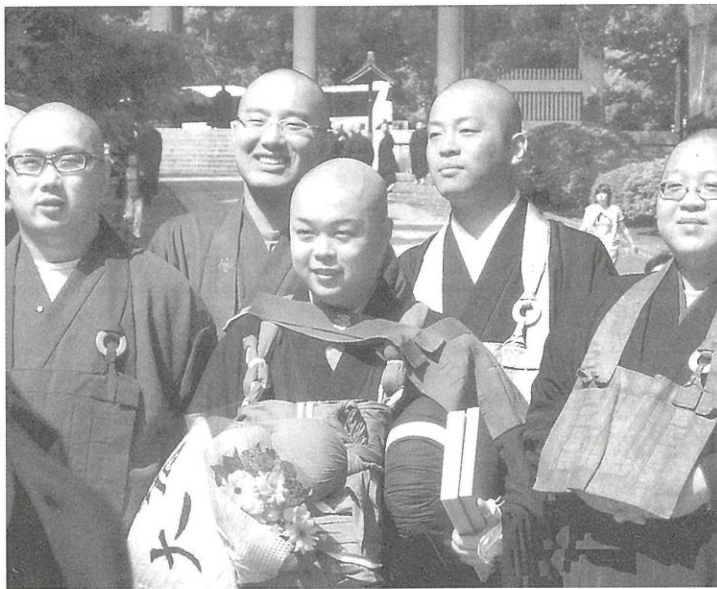
翌朝四時振鈴。三松閣大講堂で説教を聞き更に心身共に引き締まる。朝課の鐘の合図で大祖堂に移動。我々の他にスイスからの修行僧二十名余と一緒に参りする。

總持寺の僧侶さんが一同に会してマイクも使わずのお経、その最中真弘様の導師、涙止まらず言葉では言い表せない感激で一杯であった。大きな太鼓のずっしりとした音、木魚の音、何と言いまししたら良いか。監院様より真弘様の現在

までの諸業績についてお話があり、本山としては送行させたくない旨お話がありました。

案内の僧より全山拝観がありました。何処でも塵一つ落ちておらず、廊下は黒光り、掃除も修行の一つとは云い真に立派でした。

真弘様が修行に行かれた時の姿は見ておらないので判りませんが、昔ながらの姿で出てこられ香積台道路両側に送りに来られた僧侶、



修行僧全員集合。真に壮大で山門前で記念撮影。三松閣前での胴上げも壮観！私は初めて拝見しました。

途中昼食をいただき、予定時間より早く帰岡。本堂で報告のお経があがり、その後、客殿で祝菓をいただきました。

旅行中は大変お世話になり厚く御礼申し上げます。安善寺の益々の御発展と真弘様のご活躍を祈念申し上げます。

六年間ご苦勞様でした

鈴木昭次郎



ありがとうございました。

大道禅師様のお言葉にもあったように、副住職は六年間の厳しい修行を自らの力で切り開き、それを克服してこられたと思います。そして、その持てる思いやりの心「同事行」が、他の修行僧の心にも通じ、リーダーとしての活躍に大いに役立ったのではないのでしょうか。

先祖代々の供養、勸行、寺内の見学、送行などを通じ、修行僧たちの素晴らしい連帯意識、礼儀、規律などを垣間見て曹洞宗の修行の厳しさを再認識しました。

この度の副住職本山送行記念は皆様の御協力により滞り無く終了いたしました。送行記念には檀家もぜひ出席すべきだと、提言して頂いた笠井総代様、本当に

送行の儀を終えられて帰山された副住職には「お帰りなさい。ご苦勞様でした」と申し上げると共に、この後は私どもと接する機会が多くなると思いますが、住職の片腕として大本山で培われた豊富な体験を活かし、私ども檀信徒をお導きくださいますようお願いいたします。

読者からの

便り

我が家の千の風

長岡市●M・M

お寺よりいただく季刊紙を楽しく読ませてもらっています。昨年の「紅白歌合戦」らしい日本中を「千の風になつて」という風が吹いています。今回はそのことが書いてあり、読んでいるうちに我が家の風ならぬ、蜘蛛の話を皆様に聞いてもらおうと思ひ立ちました。



三ヶ月半の入院で母が亡くなった時のことです。亡くなる三日前の夜、母の頭上に親指くらいの大きさの黒光りした蜘蛛が天井から降りてきました。私はそれをみたとき「あっ、父が迎えに来た」と思いました。母が入院することになった時「お父さんと同じ命日になると、後々おまえ達に法事をする時に便利でいい」と言いました。その時、私は母の病名を知っていましたが、手術したら元気になるかと思っていたので、「この前、頭の手術の

時もそんなこと言って、十日で退院したじゃない」と言ったら、母は笑っていました。そのことが頭に浮かんたのです。「お父さん、もう少しお母さんを私達のそばに置いてくださいね」と言いました。

朝になって蜘蛛はおろか、糸もなくきれいでした。昼間は娘が側に付いてくれて、その夜は妹が泊まってくれました。日が明けた昼に、寝るがごとくに天に召されました。父が連れていってくれたなあと思ひ、私は無事に母を父の元にやれたと思ひ、何か安堵の気がしました。

葬儀の後、家族がいる所でその話をしました。すると娘は「昼はガラス窓の外にいた」と言い、妹は私と同じことを目にしていました。父が亡くなってから三十年の間、父は母を、私達を見守っていてくれたのだと思ひ、嬉しくなりました。その後、娘の結婚、出産、地震といろんな出来事がありました。そのつど父母に手を合わせ、報告とお願

いをしています。

九月十一日のニューヨーククテロの慰霊祭で、父を亡くした少女が「千の風になつて」の詞を朗読していました。母の命日は九月十一日、父の命日は九月三日です。

一日の終わりに

東京都目黒区●佐田明子

先日「永遠の命」を読ませていただきました。「千の風になつて」のすばらしい詞に私も感動いたしておりました。

私共は二階に息子夫婦と孫二人が住んでおりますが、一日の終わりに佛様を拜みに来てくれます。先祖があつて今の私達があることを子供なりに理解しているようです。

お寺様が経営している幼稚園であつたり、息子夫婦がそのような教育をしてくれたこともあつて、孫の顔を見る楽しみは佛様の導きかも知れません。

最近の世の中の乱れに心が痛みますが、せめて我が家の子供達には人間としての優しさ、そして誇りを失

わずに生きていけることを願つております。私共も元気で年を重ねることを目標にして努力しております。

どうせなら、

笑つて暮らそう

奈良市●中村ジュン

昨年は兄弟でお墓詣りが出来てとても嬉しかつたです。長年気になりながらほつたらかしていたにも関わらず、ご住職様、奥様の暖かくお優しいおもてなしを頂き、ありがたうございました。

年を重ねるたびに老化して行く自分に落ち込むこともありですか、これも自然現象と思つて、「泣いて暮らすも一生、笑つて暮らすも一生、同じ一生なら笑つて暮らそう」と最近は思つています。

毎日小さな楽しみをみつけ、趣味を持つて生活すれば、それなりに体調はいいみたいです。

よろしくお願ひします

新潟市●新保賢一

長岡を離れて二十年になります。我が家は浄土真宗に

属し、お墓もその寺にありました。この度、安善寺様の暖かいお心とご理解をいただきまして皆様のお仲間入りにさせて頂きました。

以前、亡き母は写経会に入会し、妻も長岡で退職後に写経会でお世話になりました。私共も今後益々安善寺様の行事に多く参加し、報恩感謝の供養につとめて参りたいと思ひます。

謡曲「弱法師」の中の「金堂のご本尊は如意輪の仏像。：仏法最初のご本尊と顕れたもうおん威光のことなるかな。」を思い出しながら、今日も仏前で謡いました。

今後ともよろしくお願ひいたします。 合掌

長岡の誇り河井継之助

長岡市●山崎甚吉

旧河井邸跡に昨年末に開館した河井記念館を正月早々に見学して参りました。規模は小さいなりに整備され、配置も工夫されており、展示は多くありませんが内容も充実していました。私が一階を見終わつたと

き、足元の悪いのに気づいた女性館員が「二階はエレベーターでも行けます」と、親切に案内していただき、その気配りと共に感謝しました。

各種の展示品の中に「民は國の基 吏は民の雇い」の書が目にとまりました。封建の世、身分制度が確立されているにもかかわらず、現代の民主主義の世に勝る思想に一驚すると共に、如何にして学んだか疑問を感じました。陽明学なのか、或いはスイス商人ヌエルとの交流から永世中立国を知ると共に彼等の思想より悟ったものかとも思いました。

八丁沖よりの奇襲で長岡城奪回した破天荒な戦術が高く評価されておりますが、学識と識見も併せて称賛されるべきものと思えます。戊辰の戦乱は陽明学の教えの経世済民と共に、民主の思想は実現出来ませんでした。しかし、彼の薫陶を受けた多くの若人がそれぞれ成功して、世に貢献しており、また、郷土の誇りと精神的な影響を残しました。河井継之助の従来

識の外に加えて、その偉大さを知り、短時間で良い勉強となりました。

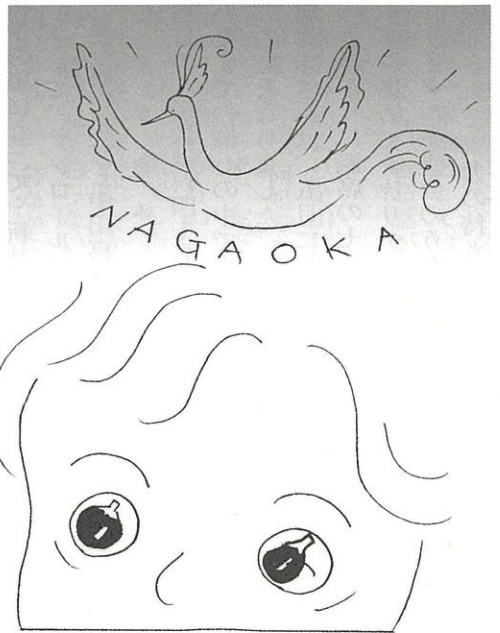
館の外に蒼龍窟と号したゆかりの松は枯れてありませんが、文化人であった父親の残したものでしょうか、風流な庭が昔のまま再現されて、館内一階の休憩室より眺めて参りました。敷地の関係で駐車場が狭いのは残念ですが、近くの山本五十六記念館と併せて長岡の観光の施設として更に広く紹介していただき、長岡の誇りを広めていただきたいと思います。

思い出深い

長岡のひととき

千葉県●鈴木千代子
新緑の美しい頃となりました。街では今年の長岡まつりのことが話題になっていることと思えます。

私は安善寺の奥様マリ子さんの大学時代の同窓で、寮生活を共にした者ですが、マリ子さんが長岡に嫁がれた時から「いつか一度、目にした長岡の花火」と、憧れていました。しかし、子育てに、フルタイムの仕



事にと、叶わぬことでした。

それから三十年が過ぎ、平成十三年に越後湯沢でクラス会があり、これがキッカケとなってこのおたよりに郵送していただくようになりました。毎号の記事の中にお寺さんと地域の皆様が結びついた活動をしていることを知り、墓参のみで身近にこのようなつながりが無いことを残念に感じていました。しばらくしてKAKA笑の会の立ち上げを知り、そのネーミングの斬新さにビックリしました。越後の女性の力強さと明るさを感じる名称と、それを裏付ける活動に、遠く千葉県からエ

ールを送らせて頂きます。

勿論このような活動は檀信徒さんご住職、マリ子さんとの連携の上に成り立っていることですが、本当にすばらしいことです。また、今年からは副住職さんも加わり、力が二倍にも三倍にもなることと存じます。うれしいかぎりです。文末になってしまいました。が、昨年の長岡の花火には学友八名で皆様のご信念とご浄財で新築された客殿に泊まらせて頂きました。朝食には蒸した茄子茶巾、ズイキの甘酢、清々しい水なす等々、長岡の味を満喫しました。本命の花火は、

お別れ

(平成十九年三月九日～六月)

高橋ムメノ様 三月九日寂

長岡市柿町

倉重 清様 三月十六日寂

長岡市新保

小林スズエ様 三月十八日寂

長岡市関東町

太刀川千代子様 三月二十日寂
長岡市神田町

若井 博様 一四月二日寂
長岡市今朝白

金井庄三様 四月十三日寂
長岡市堀金

星野忠次様 四月二十三日寂
長岡市川崎

佐藤定男様 四月二十五日寂
長岡市東神田

名見耶千代様 五月十五日寂
長岡市新町

齋藤英雄様 五月十九日寂
長岡市学校町

西片タマ様 五月二十日寂
長岡市東栄

名見耶貞様 五月二十六日寂
長岡市新町

岩佐久男様 五月二十八日寂
長岡市

保科國市様 五月三十一日寂
埼玉県草加市

ご冥福をお祈り申し上げます。

第九回 KAKA笑の会報告 サマータイムムコンサート



六月二十九日、梅雨真っ盛りの蒸し暑い夜でしたが、恒例の「KAKA笑の会」主催のコンサートが、ソプラノ歌手、五十嵐郊味(さとみ)さんと齋藤淳子さん(ピ

アノ演奏)をお迎えして、開催されました。では、当日のプログラムをご紹介しますみましょう。
* * *
(…の名前は作曲者です)

- ・初恋 ……越谷達之助
- ・かやの木山…山田 耕筈
- ・待ちぼうけ…山田 耕筈
- ・オンブラマイフ
- ・(樹木の蔭で)…ヘンデル
- ・ラシア・チオ・ピアంగా (私を泣かせてください)
- ・…ヘンデル
- ・オペラ「セヴィリアの理髪師」より(今の歌声は)
- ・…ロッシーニ
- ・オペラ「カプリレティとモンテッキ」より(ああ、幾たびか)…ベッリーニ
- ・くちづけ…アルディーティ
- ・千の風になつて…新井満
- ・そして、アンコールには「夏の思い出」…中田喜直
- * * *



この度のコンサートも、彼女の歌声をまた聴きたい、という方達がたくさんおいでになりました。
コンサートの中で、五十嵐さんは、「先ほど、安善寺様特製のお稲荷さんをいただいたのですが、おいしくて八個も食べてしまいました。ドレスが着られるか、心配でした」などと、愉快なエピソードを披露。場内は笑いの渦でした。彼女ほどのクラスになると、プライドもあつて近寄りがたいのですが、分け隔てなく打ち解ける親しみ易い性格も、五十嵐さんの魅力のひ

ありがとうございました

室賀静仙

「若方丈さんが大本山總持寺様での修行が終わり、安善寺へ戻られましたので五月でひとまずお手伝いを終わらせていただきます」と、お話しすると「家に来てくださるようになって二三年でしたかね」とお檀家の方々。平成十三年の一月からでしたので足かけ七年目に入りました」と云うと、「もうそんなに経ちましたか」とビックリ顔。私自身も

とつです。最後に、「千の風になつて」を五十嵐さんのお手本に続いて、全員で合唱しました。しみじみと余韻を味わいながら、アンコールは爽やかに「夏の思い出」。再び五十嵐さんのリードで全員で合唱。練習もしていないのに、会場の皆さんの声が、美しいハーモニーとなつて湿っぽい梅雨も吹き飛ばし、初夏の夜空へ吸い込まれていったのでした。

旬歌 灯歌

[その十三]

ミラボー橋

加瀬由紀子

四月のある日のこと、農林水産省から、突然電話がかかってきた。全く心当たりのないまま受話器を取ると、農水省の出先である金沢の北陸農政局からで、ぜひ会いたいというのだ。

昨年、私の所属する新潟県自然観察指導員の会(会員約四百名)と長岡市(財)農村環境整備センターとで「田んぼの生き物調査」を実施したり、国営越後丘陵公園・野生ゾーン(いよいよこの九月に本格開園!)で初体験ながら稲刈りや、はぎ掛けも首尾よくできたことが評価されたのに違いない。その麗しきほっかむり姿にシビれた殿御が面会にくるのかも、などとあり得ない想像をするうちにその日がきて、運転手付の車で現れたのは、いかにもお役人と言った風情の男性三名、私を取り囲み延々と説明を始めた。新潟大学の農学部の教授

二名と共に、農水省国営事業の環境情報協議会の委員に任命する、というもので、ついでには、県内二箇所の頭首工(水門のような設備)について意見を集約せよ、と言った内容だ。飲み友達でもある、新潟大学は河川工学の権威、大熊孝教授夫妻から川について勉強をさせていたでいていたので、お役に立てれば、と委員を引き受けることになった。

六月末に開催の委員会に出席するべく、朝八時過ぎ、長岡駅のホームから北越二号で金沢へ向かった。

金沢は、昨年の秋、四人グループで訪れて以来だ。いつぞやウインザー洞爺のミシエルプラスでグルメツアーをした友人たちなので、目的はただひとつ。「金茶寮・本店」で加賀料理を味わう、という何とも不純な動機であった。女性もこのトシになると、もはや「食

い物」にしか心を動かさなくなるのか。いや、一人二人ではとても行けそうもない高級料亭でも、四人連れならコワイもの知らず、好き勝手な言動も大目に見ていただけのからか??

さて、今思い出せるのは千坪の庭に茶室風離れが幾つか点在し、若女将が元JALのステューワーデスという美人だった、ということだけで、何を食べたか忘れてしまっている。さすがに、ウツとうめいた金額だけはよく覚えていたのだが。

この度の金沢行きは、食べ物どころではなく、大学の先生方と三、四時間も議論を交わさねばならないので憂鬱であった。新幹線よりはるかに遅い車窓からは、どんより曇った雨空と鈍い色の日本海が見え隠れし、更に重い気分になる。終着の金沢駅は、観光やビジネス客で賑わっていた。

北陸新幹線が金沢まで完成するのを心待ちにしている、高層ホテルや駅前の整備が着々と行われ、街は活気に満ちている。北陸新幹線完成の暁には、上越新幹線の本数が減らされ、人の流れが変わる、と危機感を抱く長岡や新潟市と対照的だ。

に煙る先は、小立野方向であるろうか。金沢に住んでいた叔母(母の姉)が逝ってから十年。叔母が嫁いだのは郊外・小立野の旧家の豆腐屋であった。木造の三階建ての細長い京風の大きな家で、中庭の奥に蔵があった。前田家に入りを許されていた家柄で、蔵には骨董の入った茶箱が並んでいた。中でも漆器類は象嵌や金箔が施さ

れ、価値ある品が多かったのに、普段は欠けた茶碗で冷ご飯に水をかけて食べている、質素な叔母であった。朝早い豆腐作りが終わると、犀川沿いの豚小屋に行つて豚の世話をしたり、トマトやナスなどの野菜畑の手入れ、豆腐の配達。働きづくめで亡くなった叔母を思うと、セレブなグルメツアーもたまにはいいのかもしれない。東京を離れ金沢で過ごした叔母の一生は幸せだったのだろうか、今ももう知る由もない。



橋にもたれ、雨で増水した犀川を見ながら、アポリネールの詩の一節を思い出した。ミラボー橋の下をセーヌ川が流れ われらの恋が流れる 私は思い出す 悩みのあとには楽しみがくると日も暮れよ 鐘も鳴れ 月日は流れ 私は残る 手と手を繋ぎ 顔と顔を向け合おう こうしていると われらの腕の橋の下を 無窮のまなざしの疲れたときが流れる 日も暮れよ 鐘も鳴れ 月日は流れ 私は残る

賑やかにになりました

ペコのひとりごと



梅雨入りとともに、戸が閉まっている部屋に居る私にも物凄い雨音が聞こえてきます。洪水にならないければ良いのですが。

私は時折注射をうってもらいながらも元気で、まだ階段の上り下りもできます。最近はおボブが私の傍に

いてくれることが多くなり心丈夫です。そんな様子を見て、住職の「ボブは凄いですよ、私は何匹か猫を飼ったけれどこんな猫は初めてだ！ 犬的な猫だね」と話している声が聞こえてきます。

先回の季刊紙が皆様のお手元に届いてから僅か四ヶ月の間に、お寺はとも賑やかにになりました。と言うのもお兄ちゃんが修行を終えて無事に戻って来たのです。六年前、修行に行くまでの残された僅かな時間にスノーボードを磨いていた頃とは見違えるくらい立派になって。そんなお兄ちゃんを待っていたかのように五月のお寺は本当に忙しく坐禅会だけでも定例以外に幾つかの臨時の坐禅会が入り、一日も休みがありませんでした。

でも若さって良いですね！夕食になると住職の飲み物もちゃんと用意して楽しそうに晩酌をしている姿は微笑ましいものです。

もう一つは三月四日、サクラに三匹(女の子ばかり)の赤ちゃんが産まれました。犬は安産と聞いていたので犬のお産は軽いのかと思っていました。一匹目の子が産まれてから待つこと二時間、二匹で終わりがなと思つたら、その三時間後にまた一匹、待っている間もとても苦しうでした。

私が一番驚いたのは、あの甘えん坊のサクラが一生懸命に赤ちゃんの世話をしているではありませんか。それに生まれてから一週間くらいは片時も子供の傍を離れずに、大事に大事に育てていました。でも三匹の内、二匹は一ヶ月半後に大切にしてくださる人の家へとサクラの元を離れていきました。

残った子犬は「ノンちゃん」と名づけられサクラに叱られながら元気に育っています。時折、成長ぶりが季刊紙に載るかもしれませんが、ニヤーン

思っていました。植木等さんが八十歳で亡くなった。「サラリーマンは気楽な稼業ときたまんだ」は、当時の流行語となり、「無責任男シリーズ」の映画を中学生のとき見に行ったものでした。しかし役者として無責任男を演じた植木等さん本人は大変まじめな方で、実家は浄土真宗のお寺で、この役を受ける際には大変悩まれたそうです。

さて、今の時代、この無責任人間が映画でなく現実になっっています。老後の生活の糧の年金が無責任役人のため消えてしまったり、介護を儲けの対象のビジネスにして不正を働く無責任経営者や、汗も流さず他人の会社の株を買って占めて、高値で売却し金儲けしてなにが悪いと、

居直る無責任投資家。これでは子供たちに、将来大人になつたら何になりたいですか？と聞いても答えられないのが分かるような気がします。先日も乳児を乗せたベビーカーが電車のドアに挟まれる事故がありました。幸いにも大事には至らなかつたようですが、マスコミは電車の乗務員の不注意と決め付けています。が、発車寸前にベビーカーを押し

て乗り込もうとした女性に否があると私は思うのですがいかがでしょうか。戦前の教育がすべて正しいとは思いませんが、戦後アメリカから入ってきた民主主義を権利主義(無責任主義)と勝手に解釈し、義務を果たさない人間が増えたのでしょうか。

悪いことをしたら素直に謝る。他人に助けてもらつたら、ありがとうと言う。このことを大人はもう一度心の中で問い直してみませんか。梅雨に入り、じめじめしていますが、心はさわやかにいきたいですね。

室賀清輝

編集 今年の春、植木等さんが八十歳で亡くなった。「サラリーマンは気楽な稼業ときたまんだ」は、当時の流行語となり、「無責任男シリーズ」の映画を中学生のとき見に行ったものでした。しかし役者として無責任男を演じた植木等さん本人は大変まじめな方で、実家は浄土真宗のお寺で、この役を受ける際には大変悩まれたそうです。

さて、今の時代、この無責任人間が映画でなく現実になっっています。老後の生活の糧の年金が無責任役人のため消えてしまったり、介護を儲けの対象のビジネスにして不正を働く無責任経営者や、汗も流さず他人の会社の株を買って占めて、高値で売却し金儲けしてなにが悪いと、

居直る無責任投資家。これでは子供たちに、将来大人になつたら何になりたいですか？と聞いても答えられないのが分かるような気がします。先日も乳児を乗せたベビーカーが電車のドアに挟まれる事故がありました。幸いにも大事には至らなかつたようですが、マスコミは電車の乗務員の不注意と決め付けています。が、発車寸前にベビーカーを押し

第三十九号、秋号は平成十九年九月十二日(水) 発刊予定です。

お便り原稿用紙

季刊誌では、壇信徒・読者の皆さまと、ごいっしょに誌面をつくりながら、コミュニケーションを深めたいと思います。ハガキまたはお手紙、ファックスなどで、お気軽にお便りをお寄せください。お待ちしております。

原稿の例

- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください／仏事のしきたりや疑問(編集部や住職がお答えします)など。
- 嬉しい・楽しい／嬉しかったこと、楽しかったこと、悲しかったこと、怒ったこと。